

2018年1月17日

鹿児島大学病院 小児科で
白血病の治療を受けた患者さんへ

(医学系研究に関する情報)

鹿児島大学病院小児科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

小児白血病における核小体ストレス応答の解析

【研究機関】

鹿児島大学病院 小児診療センター 小児科

【研究責任者】

鹿児島大学病院 小児診療センター 小児科
特任助教 中川 俊輔

【研究の目的】

小児白血病は20世紀後半から大きく治療成績が向上しましたが、依然として20-30%は再発し治療抵抗性となるため、再発症例に対する新たな治療法の開発が強く望まれています。

p53は強力に腫瘍を抑制する遺伝子ですが、小児白血病においてはその解明や治療応用は進んでいません。近年、核小体ストレス応答という新たな分子機序を介したp53の活性化が解明され、各種癌において予後に関わっていることが明らかになっています。核小体ストレス応答が抗腫瘍効果を発揮するため

には腫瘍細胞が p53 に変異を起こしていないことが必要ですが、小児白血病の p53 はほとんど変異していないので、核小体ストレス応答が小児白血病においても他の癌と同様に予後と関連している可能性が高いと考えています。

本研究では鹿児島大学小児科で検体保存の同意が得られている小児白血病患者さんの診断や治療効果の評価のために得られた骨髄及び末梢血液の余剰検体を用いて核小体ストレス応答に関連する分子を解析し、再発や治療抵抗性などの臨床所見と照らし合わせ、核小体ストレス応答が小児白血病において予後と関連していることを明らかにし、今後の白血病患者さんにとってより良い治療方法を開発するために役立てたいと考えています。

【研究の方法】

診断や治療効果判定のために過去に保存された骨髄と末梢血液の余剰検体を用いて、RPL11 や PICT1, MDM2, p53 などの核小体ストレス応答に関わる分子の発現を調べます。また、患者さんの診療録を用いて再発や治療抵抗性との関連を明らかにします。

【対象となる患者さん】

2003年1月1日から 2021年10月31日までに鹿児島大学小児科を受診し小児白血病と診断された患者さんを対象にしています。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

診断や治療効果判定のために保存された骨髄と末梢血液の余剰検体を用いて、RPL11 や PICT1, MDM2, p53 などの核小体ストレス応答に関わる分子の発現や DNA, 蛋白質を調べます。また、診療録を用いて再発や治療抵抗性との関連を調べます。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで

発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野の研究費（使途特定寄付金）で実施します。研究費の一部には企業等からの寄付金が含まれますが、広く学術を振興するためのものであり、この研究を特定したものではありません。この研究に対する企業等からの寄付および労務提供はありませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番地1号

鹿児島大学病院 小児診療センター 小児科

鹿児島大学医歯学総合研究科 臨床腫瘍学 特任助教

中川 俊輔

電話 099-275-5354 FAX 099-265-7196